

別表1：放射線場と被ばく状況に応じた実効線量及び等価線量の算定方法

体幹部均等モニタリング

装着区分 と 測定対象	体幹部基本部位						体幹部基本部位+末端部						体幹部基本部位+眼の近傍						体幹部基本部位+末端部+眼の近傍								
	光子			β線			中性子			光子			β線			中性子			光子			β線			中性子		
	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)			
M1 ^{注1}	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○			
M2 ^{注2}																											
M3 ^{注3}						○			○		○				○		○				○		○				
M4 ^{注4}															○		○				○		○				
算定方法 ^{注6}																											
実効線量	[pH(10)+nH(10)] _(M1)						[pH(10)+nH(10)] _(M1)						[pH(10)+nH(10)] _(M1)						[pH(10)+nH(10)] _(M1)								
皮膚	[pH(0.07)+βH(0.07)+nH(10)] _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M3の最大値) + [nH(10)] _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)+nH(10)] _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M3の最大値) + [nH(10)] _(M1)								
水晶体	[pH(M1のH(10)とH(0.07)の最大値)+βH(0.07)+nH(10)] _(M1)						[pH(M1のH(10)とH(0.07)の最大値)+βH(0.07)+nH(10)] _(M1)						[pH(3)+βH(3)] _(M4) +n(10) _(M1)						[pH(3)+βH(3)] _(M4) +n(10) _(M1)								

体幹部不均等モニタリング

装着区分 と 測定対象	体幹部基本部位+頭頸部						体幹部基本部位+頭頸部+末端部						体幹部基本部位+頭頸部+眼の近傍						体幹部基本部位+頭頸部+末端部+眼の近傍								
	光子			β線			中性子			光子			β線			中性子			光子			β線			中性子		
	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)	H(10)	H(3)	H(0.07)	H(3)	H(0.07)	H(10)			
M1 ^{注1}	○		○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○	○			
M2 ^{注2}	○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○		○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○		○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○		○	* ^{注5}	○	* ^{注5}	○				
M3 ^{注3}						○			○		○				○		○				○		○				
M4 ^{注4}															○		○				○		○				
算定方法 ^{注6}																											
実効線量	pH(M1、M2による不均等計算値) ^{注7} +nH(10) _(M1)						pH(M1、M2による不均等計算値) ^{注7} +nH(10) _(M1)						pH(M1、M2による不均等計算値) ^{注7} +nH(10) _(M1)						pH(M1、M2による不均等計算値) ^{注7} +nH(10) _(M1)								
皮膚	[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M2の最大値) +nH(10) _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M2の最大値) or [pH(0.07)+/or βH(0.07)] _(M3) の最大値+nH(10) _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M2の最大値) +nH(10) _(M1)						[pH(0.07)+βH(0.07)] _(M1、M2の最大値) or [pH(0.07)+/or βH(0.07)] _(M3) の最大値+nH(10) _(M1)								
水晶体	pH(H(10)とH(0.07)の最大値) _(M2) +βH(0.07) _(M2) +nH(10) _(M1)						pH(H(10)とH(0.07)の最大値) _(M2) +βH(0.07) _(M2) +nH(10) _(M1)						[pH(3)+βH(3)] _(M4) +n(10) _(M1)						[pH(3)+βH(3)] _(M4) +n(10) _(M1)								

注1 M1：体幹部用基本線量計(胸部または腹部装着)

注2 M2：体幹部用補助線量計(頭頸部装着)

注3 M3：末端部用線量計(指部に装着、光子用またはβ線用とすることを基本とする)

注4 M4：水晶体用線量計(眼の近傍に装着)

注5 体幹部用線量計でH(3)の評価が出来るとき、事業者の求めに応じH(3)を提供し、事業者の判断を以って、これを水晶体の等価線量とすることができる。なお、この場合、次のようなケースを想定している。

(1)水晶体用線量計を装着していなかった作業において、作業量の突発的な増加や機器の故障などで想定外の高線量の被ばく(の可能性)が生じた時、または(2)水晶体用線量計の紛失、誤使用等によりH(3)が得られなかった時

注6 算定に用いる線量計の測定値(線量当量)を次のように表しています。()内の数字は線量当量の深さmm

pH()：光子に係る線量当量

βH()：β線に係る線量当量

nH()：中性子に係る線量当量

注7 pH(M1、M2による不均等計算値)=0.08×pH(10)_{M2}+0.44×pH(10)_{胸部M1}+0.45×pH(10)_{腹部M1}+0.03×pH(10)_(胸部M1、腹部M1、M2の最大値)

但し、胸部未測定の場合は胸部M1の代わりに腹部M1を、腹部未測定の場合は腹部M1の代わりに胸部M1を使用する。